

(様式1)

平成28年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 004	提案機関名 畜産課
要望問題名 コーヒー豆粕サイレージの現場への普及に向けた検討	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 平成26年度までの畜産技術センターの試験において酪農・養豚分野においてコーヒー豆粕サイレージの生産性等に及ぼす影響について試験が実施され、乳牛では機能性飼料としての可能性が、養豚では飼料代節減の可能性が示唆されている。 コーヒー豆粕は多量に発生する資源であることから、現場での普及に向けた給与量・給与時期の検討をお願いするとともに、機能性に関しても更なる研究をお願いしたい。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画研究課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) コーヒー豆粕の給与が乳牛の健康と生産性に及ぼす影響の検討		
対応の内容等	コーヒー豆は生体内で活性酸素の低減による免疫能の改善に効果のあることが知られていますが、嗜好性が劣るため家畜の飼料としての利用は少ない状態です。そこで、既に市販されている嗜好性を改善したコーヒー豆粕を加えた飼料を乳牛に給与し、乳生産性や健康状態に対する効果を平成25年度より継続して調査しています。また、豚では平成26年度の試験において、コーヒー豆粕サイレージを4%及び8%配合した飼料を肥育豚に給与したところ、給与しないものと比較し、発育性・生産性で差はなく、8%配合した場合は飼料代が安くなる傾向がみられました。 コーヒー豆粕の飼料化技術については検討の予定はありませんが、現場での普及に向けた給与量・給与時期については、試験中の成果を参考願います。		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			